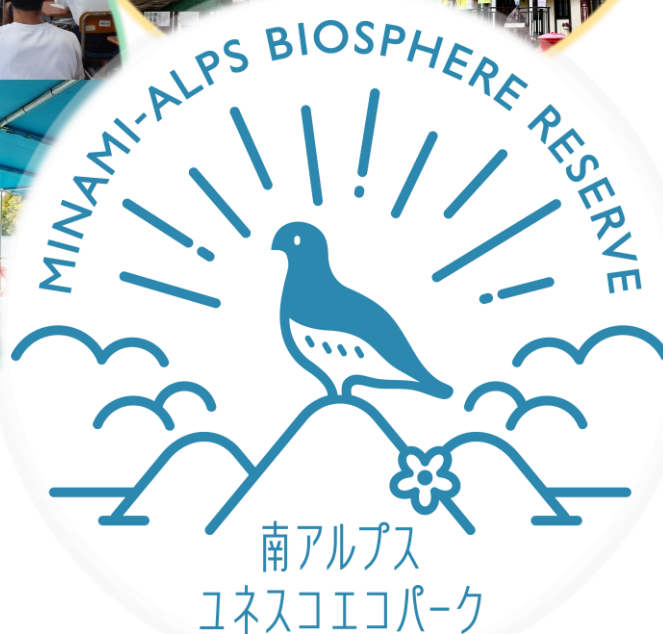


第2次南アルプスユネスコエコパーク 管理運営計画(静岡市域版)

普及
啓発版



2025 年4月
静岡市



1. 管理運営計画の基本事項

●ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパーク（生物圏保存地域、Biosphere Reserve）は、世界が直面する課題に対し、生物多様性の保全と持続可能な利活用との調和という視点から、その解決に向けた取組を行っています。

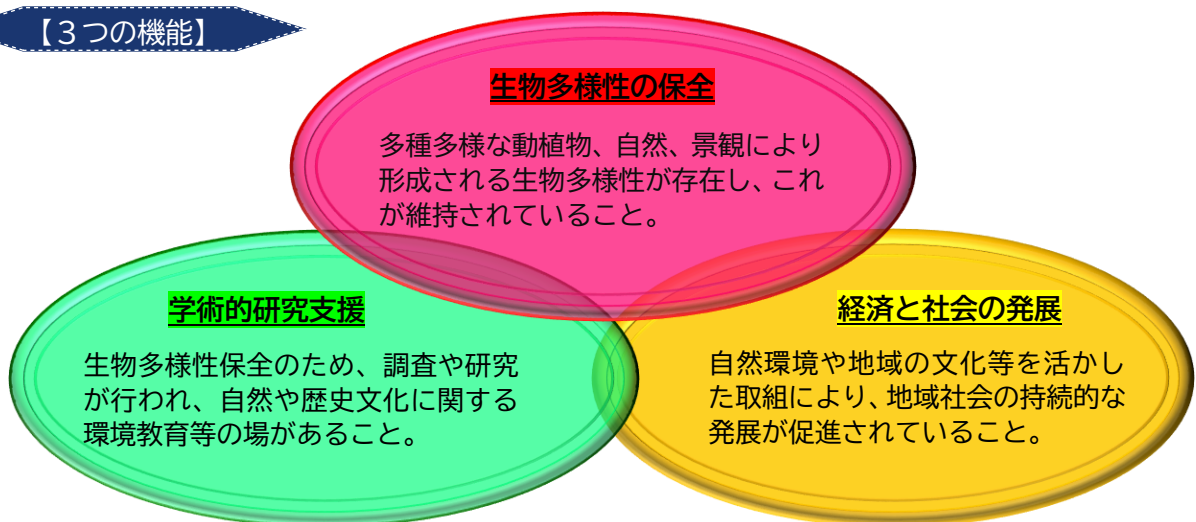
ユネスコエコパークとは、ユネスコの「人間と生物圏計画」の枠組みに基づいて、ユネスコによって国際的に認定された地域です。

2024（令和6）年現在、国内では10地域がユネスコエコパークに登録されており、南アルプスユネスコエコパークは2014（平成26）年に登録されました。

●ユネスコエコパークの3つの機能と地域

下図に示すユネスコエコパークの3つの機能は独立したものではなく、それぞれが関係し合いその機能を高めていきます。この3つの機能をはたすために3つの地域を設定し、つながりを意識しながら生物多様性の保全と持続可能な利活用との調和を目指しています。

【3つの機能】



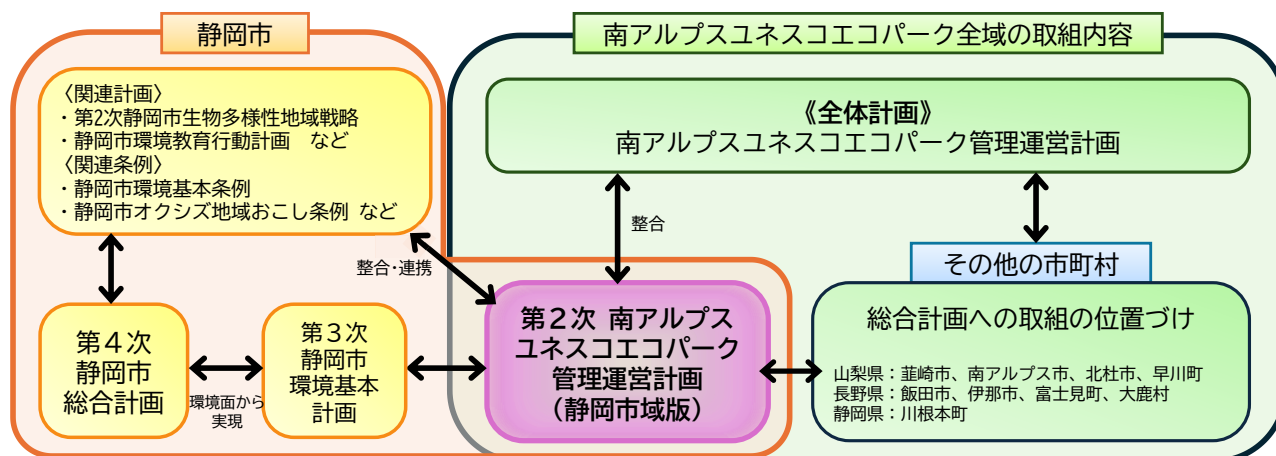
【3つの地域】



●計画の位置づけ・計画期間

この計画は、南アルプスユネスコエコパークの全体計画や、静岡市における関連計画、条例などと整合を図り、3つの機能をはたすための施策展開を行っていきます。

計画期間は、全体計画と同じ2025（令和7）年から2034（令和16）年の10年間とします。



2. 静岡市における南アルプスユネスコエコパークの構成要素

●静岡市の登録地域の特徴

生物多様性



- ◆氷河の影響を受けて形成された氷河地形（カール、モレーン）
- ◆世界最速レベルの山体の隆起（4mm/年）
- ◆ライチョウや高山植物など、氷河時代から生息・生育する氷河遺存種
- ◆V字谷、線状凹地、崩壊地形、穿入蛇行などの独特な景観
- ◆森林限界の標高が高く（2,700m程度）、植生の垂直分布が明瞭

調査と教育



- ◆国、県、市、NPO 団体等による高山植物の保護活動の実施
- ◆ライチョウの生息状況調査の実施
- ◆自然環境、生活環境等の各種調査の実施
- ◆教育・体験プログラムの展開
- ◆地域住民によるエコツーリズムの実施
- ◆小学生などを対象とした市政出前講座による南アルプス教育の推進

地域資源



- ◆歴史：中野観音堂、割田原遺跡、金山跡、井川神社、大日古道、龍泉院
- ◆伝統行事：井川神楽、ヤマメ祭り、ヒヨンドリ
- ◆食文化：雑穀を使った伝統食、はちみつ、在来作物、焼畑農業
- ◆その他：ヤマメ信仰、てしまんく、廃線小路、井川メンパ、井川湖渡船（令和聖）、地域おこし協力隊

3. 目指す姿と基本方針

この計画を推進していくうえでの目指す姿と、目指す姿の達成のための基本方針を示します。

目指す姿と基本方針の策定にあたっては、市域における南アルプスの現状を分析し、課題の抽出を行いました。

●目指す姿

本計画の目指す姿

自然環境と生物多様性を保全しながら、ここにしかない地域資源（自然、食、体験、人材）を磨き上げ、それらの持続的な利活用と交流の拡大により、心豊かに暮らせる地域を目指します。

●基本方針

①まもる【自然環境のさらなる保全】

- 希少な動植物保全事業の継続
- 気候変動や開発行為への適切な対応

持続可能な開発目標（SDGs）



②しらべる【調査の継続と体制の確立】

- 自然環境のモニタリング
- 環境影響を常に注視する体制構築
- 情報を集約し、活用する体制構築

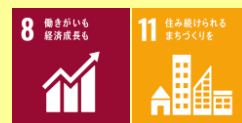
持続可能な開発目標（SDGs）



③うみだす【魅力の引き出し・磨き上げ】

- 地域資源の最大活用
- 地域住民・来訪者の安全性・利便性の確保
- 再訪したくなる魅力づくり

持続可能な開発目標（SDGs）



④つたえる【情報発信・環境教育・人材育成の強化】

- 魅力の効果的な広報
- 持続可能な観光の推進
- 自ら行動する人の育成

持続可能な開発目標（SDGs）



⑤つなげる【連携・共働の強化】

- 連携体制の強化
- 連携による上記①～④の基本方針の強化

持続可能な開発目標（SDGs）



ロゴ: 国連広報センター作成

4. 取組の方向性

基本方針① まもる【自然環境のさらなる保全】

まもる

- ◆高山植物の保護の取組の継続
- ◆ライチョウ保護の取組の継続
- ◆気候変動や開発に対する環境への注視と保全への対応
- ◆自然景観への配慮

取組の例

★高山植物の保護の取組の継続

高山植物保護のために、現在も多くの取組が行われています。失われた植物が元気に回復するまでには時間がかかるため、今後も保護の取組を継続して行っていきます。



★生態系の保存と外来植物等侵入・拡散防止

南アルプスの一部では、外来植物の侵入が確認されています。

外来植物は、登山者や車両に種子として運び込まれたり、道路整備工事の法面緑化などにより、簡単に侵入してしまいます。

侵入・拡散防止対策を継続するとともに、侵入が確認された場合の対策を検討していきます。



★新たな開発等への対応

開発等で失った自然環境は、簡単にもとに戻りません。

開発を行う事業者に対して、法令の遵守や環境保全措置（自然を守るための行動）を適切に行っていくよう指導していきます。

さらに、自然環境に影響が考えられる場合、回避・低減・代償措置についても適切に対応するよう求めています。



しらべる

- ◆モニタリングの継続
- ◆気候変動や開発に対応した新たなモニタリング体制の構築
- ◆自然や文化に係る情報の集約と活用

取組の例

★モニタリングの継続

希少な動植物の生息・生育状況や人々の暮らす生活環境の変化を把握するために、継続的にモニタリング調査を行います。

また、行われた調査や環境教育といった活動の実施状況を把握することや、高齢化や担い手不足といった社会的問題への対応を検討するための社会状況の変化の把握も行います。

ライチョウ生息状況調査の様子



★気候変動や開発に対応した新たなモニタリング体制の構築

現在行われているモニタリング調査の結果の集約により、今ある南アルプスについての知見が深まっています。

今後計画されている開発行為に際しては、自然環境や生活環境への影響を適切に把握するための調査手法（方法、場所、時期、頻度）を検討し、定期的なモニタリングを実施していきます。

さらに、専門家や地域住民、企業等を交えた、産官学民が連携したモニタリング体制の構築を行っていきます。

南アルプスの
自然環境調査の様子



★自然や文化に係る情報の集約と活用

モニタリング結果や調査研究等の情報を集約し、南アルプスに関する調査研究の活性化を図り、実効性の確認と適切な見直しを行っています。

集約した情報を、エコツアーや環境教育に活用し、地域資源の継承のため、広くわかりやすいように情報を発信していきます。

エコツアーの様子



うみだす

- ◆地域資源の活用促進の支援
- ◆地域資源を活かした新たなプログラム・コースの開発
- ◆地域資源の持続可能な利用
- ◆交通アクセスの向上
- ◆来訪者の安全性・利便性・快適性の確保

取組の例

★地域資源を活かした新たなプログラム・コースの開発

今ある様々な地域資源を活かし、来訪者が楽しめる観光プログラムや体験プログラムの開発、遊歩道や渡船を組み合わせた周遊コースの紹介など、井川の自然と触れ合える観光サービスを充実させ、着地型観光の促進を図ります。



★交通アクセスの向上

井川地域へのアクセス道路は坂道やカーブが多く、大型車両のすれ違いが困難な箇所が多く、大雨による災害時には通行止めとなることが予想されます。

現状路線の継続的な管理と整備を行うとともに、アクセス向上のために新たに建設が予定されている県道 60 号・南アルプス公園線のトンネル整備を進めていきます。



★来訪者の安全性・利便性・快適性の確保

登山者や観光客といった来訪者の安全性を確保するため、非常事態に備えた体制の整備を進めていきます。さらに、登山における安全を確保するために、登山道の老朽化対策、案内サイン（看板）の整備を進め、安全性・快適性の向上のために、山小屋といった宿泊施設の整備を行い、リピーターとなって楽しんでもらえるよう、地域が一体となって活動を推進していきます。



基本方針④ つたえる【情報発信・環境教育・人材育成の強化】

つたえる

- ◆誰にでもわかりやすい情報発信
- ◆魅力の発信方法の再構築
- ◆インバウンドに対応する体制構築
- ◆南アルプス教育の推進
- ◆環境教育・情報発信の拠点整備
- ◆地域の担い手の確保と人材育成

取組の例

★誰にでもわかりやすい情報発信

SNS やホームページを活用して、南アルプス、井川地域における観光プログラム、観光ルート等を利用した広域的な交流やイベント開催等の情報を積極的に発信し、幅広い世代に足を運んでもらえるよう努めます。

生徒や児童をターゲットとした静岡市の環境について学べる「しぜんたんけんてちょう」や若年層や女性をターゲットとした「南プス」など、幅広いターゲットに合わせた誰にでもわかりやすい情報の発信をします。



★南アルプス教育の推進

南アルプスの環境保全の担い手育成は早急に取り組むべき課題です。そこで、南アルプス教育の指導者を育成するために実際に南アルプスのフィールドで研修を行ったり、若い世代への環境保全の意識づけを目的とした高山植物保護セミナーや企業人向けの研修を実施するなど、現地での体験活動を大切にします。

さらに、南アルプス教育に係る「人・教材・資金・情報」などの資源をつなげ合わせるコーディネーターを育てていきます。



★環境教育・情報発信の拠点整備

南アルプスユネスコエコパークの環境教育の拠点を「南アルプスユネスコエコパーク井川自然の家」、情報発信の拠点を「南アルプスユネスコエコパーク井川ビジターセンター」と位置付けていますが、新たに井川地域の総合的な拠点として、「(仮称)南アルプスユネスコエコパークミュージアム」の整備を進めています。

ミュージアムでは、南アルプスの自然の雄大さと井川地域の歴史・文化を発信し、環境教育と観光の拠点としての機能が期待されています。



つなげる

- ◆管理運営体制の連携強化
- ◆定住・移住の促進
- ◆南アルプスパートナーシップによる連携
- ◆南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金の活用

取組の例

★管理運営体制の連携強化

南アルプスユネスコエコパーク全体のルールづくり等の管理運営を行う「南アルプス自然環境保全活用連携協議会」や、南アルプスの自然環境や歴史文化、地域経済等に精通する専門家による「南アルプス学会」、自治体、各種団体、民間事業者や住民との連携を強化し、南アルプスをいつまでも守り受け継ぐため、産官学民が一体となった体制づくりを推進します。

さらに、登録から10年間に発足した南アルプスユネスコエコパークにかかわる団体同士が一丸となった活動ができるよう連携強化を進めていきます。

★南アルプスパートナーシップによる連携

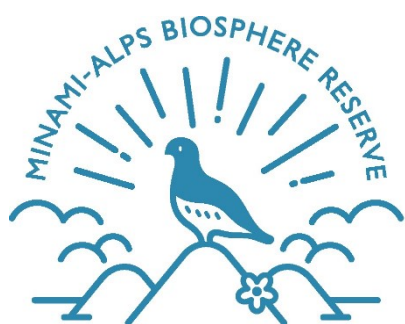
今まで静岡市が行ってきた環境保全や持続可能な利活用に関する活動をよりいっそう広げるため、団体、企業、個人が静岡市の活動に賛同し、様々な形で「連携・共創」していくパートナーシップを推進していきます。



★南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金の活用

南アルプスユネスコエコパークの自然環境を保全し、地域資源を活用するための事業に必要な資金を確保することを目的として、「南アルプスユネスコエコパーク保全活用基金」が設置されています。

保全活用基金を活用するために、企業や個人に南アルプスユネスコエコパークの魅力や理念を広く伝え、賛同してもらえるよう情報発信を行っています。



MINAMI-ALPS BIOSPHERE RESERVE

2025 年4月 策定

静岡市環境局 環境共生課エコパーク推進係

〒420-8602 静岡市葵区追手町 5 番 1 号

TEL:054-221-1357 FAX:054-221-1492